



IPAMIA

[Independent Performance Artists' Moving Images Archive](#)

Oral History IPAMIA Project

オーラル・ヒストリー・プロジェクト

*オーラル・ヒストリー・プロジェクト

2022年、IPAMIAは公益財団法人小笠原敏晶記念財団の助成を受け、オーラル・ヒストリー・プロジェクトを実施している。日本におけるパフォーマンスアートの記録のミッシングリンクとも言える、1980年代以降のパフォーマンスアートシーンを調査するため、その時代に活動をしていたアーティストや企画者の人たちにインタビューをし、テキストや画像などで記録する。

以下は、進捗状況。現在インタビューが終わっており、書き起こし作業中のプロジェクトは以下。

荒井真一さん（1958年生まれ） 2月11~12日
西島一洋さん（1952年生まれ） 4月15日
谷川まりさん（1963年生まれ） 6月11日
村田真さん（1954年生まれ） 8月20日
丸山常生さん（1956年生まれ） 10月16日、29日

1部 ●**イントロダクション** 17:00~18:20

*ゲスト紹介 荒井真一、谷川まり、西島一洋、丸山常生、松永康 (敬称略)

*IPAMIAオーラルヒストリープロジェクトの内容と経緯を説明

***各ゲストアーティストのインタビューと作品動画を紹介**

*製作中の1980~2000年のパフォーマンスアート年表紹介

IPAMIA Oral History Project 2022

Part1: 荒井真一氏 1959年5月7日生まれ

インタビュアー 山岡さ希子 (IPAMIA メンバー、アーティスト)

たくみちゃん こと 橋本匠 (アーティスト)

インタビューをした日 2022年2月11日、12日

場所 荒井真一氏の自宅 (東京都台東区駒形)



2014 Happy ABE Regime !



2000 Happy JAPAN !



2019
Hi/s/tory as a performance
artist
For LEE Wen 19571009-
20190303

通称「リーウェンに捧ぐ」

IPAMIA Oral History Project 2022

Part2: 西島一洋氏 1952年生まれ

インタビュアー 山岡さ希子 (IPAMIA メンバー、アーティスト)

瀬藤朋 (IPAMIA メンバー)

インタビューをした日 2022年4月15日

場所 西島一洋氏の元自宅



旧自宅に置かれた鉄球

IPAMIA Oral History Project 2022

Part3: 谷川まり氏 1963年生まれ

インタビュアー 山岡さ希子 (IPAMIA メンバー、アーティスト)

北山聖子 (IPAMIA メンバー、アーティスト)

インタビューをした日 2022年6月11日

場所 横浜市 北山さんの自宅



《夢のパン工場》



《泥の子ジャミラ》 近藤誠撮影

IPAMIA Oral History Project 2022

Part4:村田真氏 1954 年生まれ

インタビュアー 山岡さ希子 (IPAMIA メンバー、アーティスト)

北山聖子 (IPAMIA メンバー、アーティスト)

インタビューをした日 2022年 8 月 20 日

場所 村田真氏のアトリエ (横浜市)



インタビュー時の村田さん

IPAMIA Oral History Project 2022

Part5:丸山常生氏 1956 年生まれ

インタビュアー 山岡さ希子 (IPAMIA メンバー、アーティスト)

北山聖子 (IPAMIA メンバー、アーティスト)

インタビューをした日 2022年 10 月 16 日、29日

場所 丸山常生氏の自宅 (東京都板橋区常盤台)



インタビュー時に大学院の卒業制作
の写真を説明しているところ

2部 ●セッショントーク 18:30~20:00

* 当時のイベントについて 「ぴあ展」はみだし部門（1977）、「行為と創造」（1982）、「檜枝岐パフォーマンスアートフェスティバル」（1984~1990）、「土湯温泉パフォーマンス」（1984）「田島パフォーマンスアートフェスティバル」（1991, 1992）「いわきアートセレブレーション」（1991）、「NIPAF」（1993~）、「パフォーマンスと記録」（1997）、「MMAC（1990年代半ば~）」

* セッションの形 「赤木電気」、「公民館運動」、「21分連鎖行為芸術祭」、「現場の力」
「体現集団φアエッタ」

* クロストーク 19:20~

1. 美術系、ライブ系の壁はあるか、ないか？ クロスオーバーという流行り、舞踏との関係
2. 場所について パフォーマンスアートにとって拠点と言える場所があったらどうか？
3. 既成のルールに対して、どのようにアプローチしたか？ 社会に対するスタンス、政治性
4. 「パフォーマンス・アート」という言葉について様々な所感
5. 21世紀になって皆さんの方向性は怎么样了でしょうか？
6. 今後のパフォーマンスアートの展望は？

浜田剛爾さんについて

Summer Performance 1979

Plan for continuous Performance Vol.3

〈人間学への接近〉






1—東京 ルーテル市谷センターホール
p.m. 6:00—9:00 ¥1800

8月3日(土)
①かわねのひらひら(Vide) + 榎本昭男(音真) + 田中 達(DANCE)
②松岡三郎 音真
③シブヤク(Vide) + 浜田剛爾(Performance)

8月4日(日)
①ダンクレーのABC(7分14秒) + 音真 (Sound) + 榎本昭男(Sound)
②ステラーク(Sound Performance)

8月5日(月)
①音真 音(Performance) + タグ・マジック・グループ
②レスリー (A-Act) + 音真(音真(Sound) + 音真(音真(Vide))

2—常盤 常盤市足立図書館ホール
p.m. 6:00—8:00 ¥1000

8月11日(土)
①浜田剛爾(Performance) + スタッフ50C1 (Vide)
②浜田剛爾(Performance)
③音真 音真 (Performanceについて)

8月12日(日)
①音真(音真(音真))
②音真 (Performance)
③音真(Sound)
④音真(音真(Sound)) + スタッフ

3—東京 天井橋教会
p.m. 6:00—10:00 ¥1000

8月23日(日)
①音真 (Sound) + 音真(Sound)
②音真(Sound) + 音真(Sound)
③音真(Performance) + スタッフ

8月24日(月)
①音真-DINA (Sound Performance)
②音真 音真(Sound Performance)
③音真(Performance) + スタッフ Video show
④音真(Performance)

8月25日(火)
①音真(音真 Video show and other)
②音真(Performance)
③音真(DANCE)

8月26日(水)
①音真 (Performance)
②音真(Performance) + other man
③音真音真 AFURICA Performance
④音真(Sound)

4—京都 キヤリリー・リードフロア
p.m. 2:00—8:00 ¥1800
(昼のパフォーマンスは 8:30—8:00)

8月23日(日)
①ダンクレー (DANCE Performance)
②音真(パフォーマンス)

8月23日(日)
①音真(パフォーマンス)

8月30日(日)
①音真(パフォーマンス)

8月31日(月)
①音真 (Performance)
②音真(Performance)

9月1日(火)
①音真 (Performance)
②音真(Performance)

9月2日(水)
①音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)

5—東京 芝増上寺ホール
p.m. 6:00—9:00 ¥1800

9月8日(土)
①音真(音真) + 音真(音真)
②音真(音真) + 音真(音真)
③音真(音真) + 音真(音真)
④音真(音真) + 音真(音真)
⑤音真(音真) + 音真(音真)
⑥音真(音真) + 音真(音真)
⑦音真(音真) + 音真(音真)
⑧音真(音真) + 音真(音真)
⑨音真(音真) + 音真(音真)
⑩音真(音真) + 音真(音真)

6—東京 赤坂O.A.Gホール
p.m. 6:00—9:00 ¥1800

9月14日(土)
①音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
②音真(音真)
③音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
④音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑤音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑥音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑦音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑧音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑨音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑩音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)

9月15日(日) p.m. 6:00—9:00
①音真(音真) + 音真(音真)
②音真(音真) + 音真(音真)
③音真(音真) + 音真(音真)
④音真(音真) + 音真(音真)
⑤音真(音真) + 音真(音真)
⑥音真(音真) + 音真(音真)
⑦音真(音真) + 音真(音真)
⑧音真(音真) + 音真(音真)
⑨音真(音真) + 音真(音真)
⑩音真(音真) + 音真(音真)

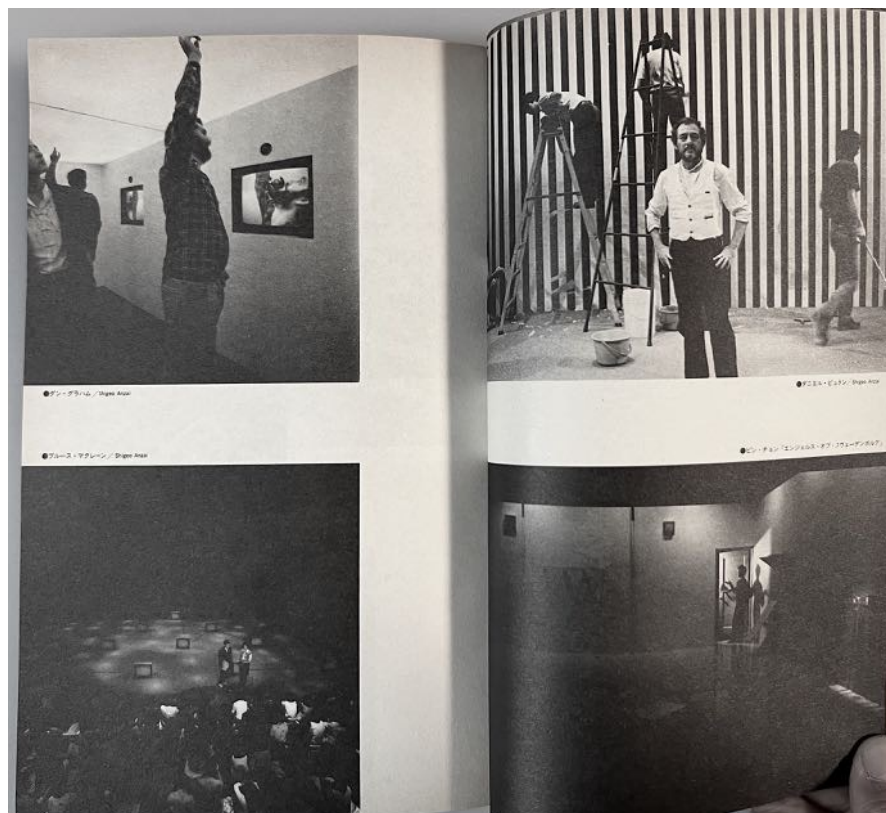
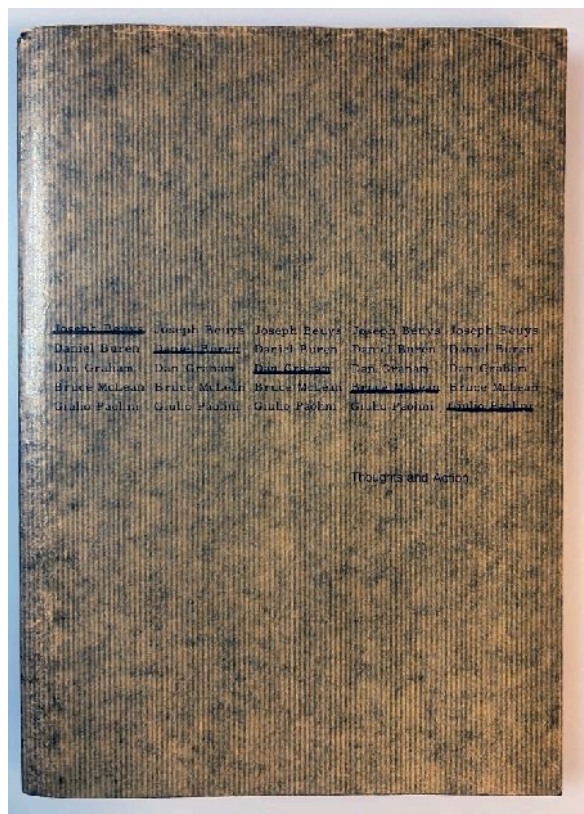
9月16日(月) p.m. 2:00—9:00
①音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
②音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
③音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
④音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑤音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑥音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑦音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑧音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑨音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)
⑩音真(音真) + 音真(音真) + 音真(音真)

Summer Performance 1979
パフォーマンスとは何か!

1978年～1984年まで？
年に2、3回行われた？

アーティスト：浜田剛爾、安土修三、
小杉武久、鈴木昭男、ステラーク、
風倉匠、島州一など
ワークショップとトークもあった

1982年「行為と創造：現代美術からの啓示」



アーティスト/
ブルース・マクレーン
ダン・グレアム
ジュリオ・パオリーニ
ダニエル・ビュラン

(現代美術からの啓示IIで、ボイスも招聘していたが来なかった
84年に西武美術館が招聘)

企画/南条史生

国際交流基金10周年企画、ラフォーレ飯倉

1984～1990年「檜枝岐パフォーマンスフェスティバル」

Performance & Forum

HINOEMATA FESTIVAL '89

LIVE INSTALLATION/MOVEMENT/IMPROVISATION
WORKSHOP/SYMPOSIUM/FILM

秋田良治 池田一 李鏡鎧
イトータリー 石井清隆 山本伸樹
湯英良 大串孝二 飯沼勝弘
加藤到 加藤就之 クリスティーナ・エステス
木村文彦 齊藤文春 ノムラヒサル
豊島重之 徳田カン 高井富子
竹田賢一 千野秀一 公庄修
武井よしみち 秋元雄史 藤枝守
藤波京子 西堂行人 会津完治
根本忍 根本忍 伊藤崇
浜田剛爾 ヒグマ春夫 向井千恵
舟木日夫 大塚淳 鈴木貴彦
星野共 丸山亮
宮内勝 山口昭二 大塚淳
吉本大輔 吉本大輔 根本寿幸
嶋津武仁 秀島英

「いわき市立美術館」

マクラン 中島宏幸
飯沼勝弘 飯沼勝弘
岡部聡 頭下徹夫
酒井秀光 村上道代
武田由美子 坂本浩子
白木悠生 真下有花
片野直美 三浦治
安田洋 伊藤陽宏
井草知徳 川原孝朗
三浦一社

PTLEAARE
TERRA

パフォーマンス & フォーラム
ヒノエマタ フェスティバル '89

●ライブ・インスタレーション ●ムーブメント ●インプロヴィゼーション ●
●ワークショップ ●シンポジウム ●フィルム ●

日時: 1989年8月25日全 = PM2:00 ~ PM10:00 / 26日土 = AM10:00 ~ PM11:00 / 27日日 = AM10:00 ~ AM 12:00
場所: 福島県檜枝岐村(公民館・舞殿前・河原・公園・民宿...等)
主催: ISA International Space of Artistic Activities
企画: ヒノエマタ フェスティバル '89 実行委員会
制作: ISA-スコーピオ プロジェクト

後援: NTT福島・福島民報社・福島民友新聞社・河北新報社・読売新聞社・毎日新聞社・朝日新聞社
Design: Kenichi WAKAYAMA Special Thanks: GIZUITSU S157, TOSHINO PRINTING Co., Ltd. NKS

ディレクター/
及川廣信、星野共、大串孝二、
ヒグマ春夫、武井よしみち、
イトータリー



村長が見物に見えたのはちょうど川仁宏のパフォーマンスの時だった。

フェスティバルは公民館2Fでのシンポジウムから始まった。テーマは「パフォーマンスは消費されるか」だった。

初日のマリリアのパフォーマンスは夜中のデトバタで行われた。月は山脇に隠れはじめ、薄の中マリリアは歌いながら出て「弱法師」のように去った。

第1日目。4日夜のパフォーマンスは、あいにくの雨の中、江戸時代以来の農村歌舞伎に今も使われる同村「舞殿」前広場で始まった。周りは鬱蒼とした林。芽苺きの舞殿を背にした演者の動きはまるで対向する山に語りかけるかのよう。丸山死のひたすらな直線歩行、ブラジルからきたマウラの狂女振り。自ら光センサーと化した粉川哲夫の火との対話。しかし何といても圧巻は「舞踏の天皇」大野一雄が、雨にさらした81歳の裸体だっただろう。最後の演者・勅使川原三郎がそのまま、観客を2キロ離れた「デトバタ河原」までマラソンドレスで引っ張っていった。雨はずっと降り続き観客はだれも帰らない。河原ではインスタレーションの大串孝二がたき火の上に寝そべり、川べりに立つ電源開発の管理小屋の屋根から、異形の玉野黄市がそれを見下す。と、そ

写真・宮内 勝



公園の橋を渡ると、川の両岸からロープが張ってあって、Dooopの旗が色彩やかに吊るされてあった。

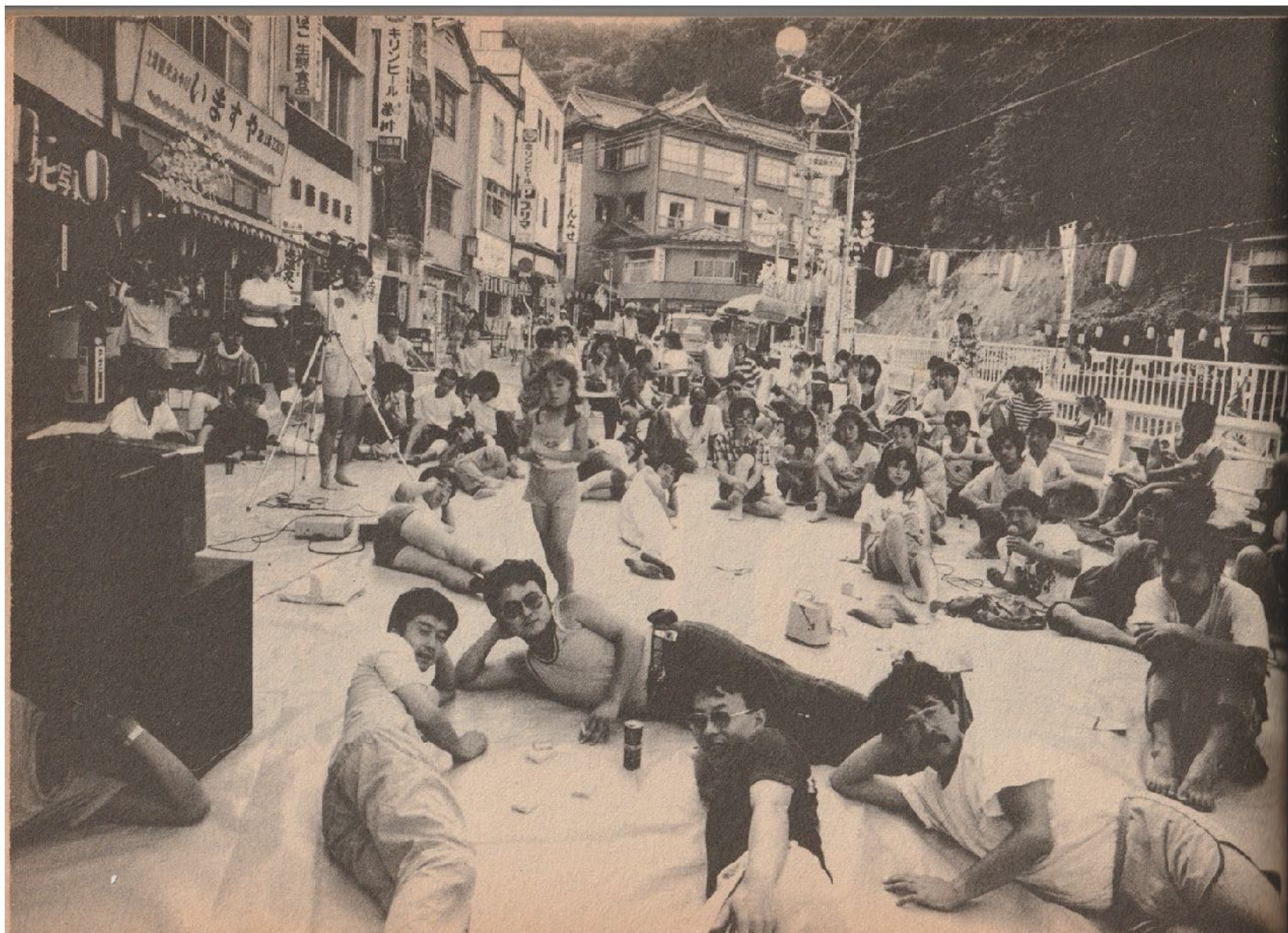
出作り小屋での打上げはビデオ観賞、キャンプファイヤーからマロンちゃんの自由ラジオで湧いた。

6日の午後4時半、TERRAの芝居で3日間のフェスティバルの幕は閉じた。

今年は、3日間のうちまる2日間雨にみまわれ、野外でのパフォーマンスは、一種タルコフスキー的な環境のなかでパフォーマンスをすることになった。当然、これは、パフォーマーたちに困難を強いると同時に予期せざる創造的な結果を生むことにもなった。思うに、80年代のパフォーマンスは、もはや〈主体〉のパフォーマンスではなくて、〈場〉のパフォーマンスである。〈場〉が創造的に変容するということは、これまでの「パフォーマンス」で〈主体〉とみなされてきた〈身体〉が無化（希薄化・空虚化）するということでもある。その意味で、フェスティバルで発表された50以上のパフォーマンスは、〈場〉の形成と〈身体〉の無化という観点から考察することが可能だろう。

写真・秋田重治

1984年「土湯温泉パフォーマンス&シンポジウム'84」



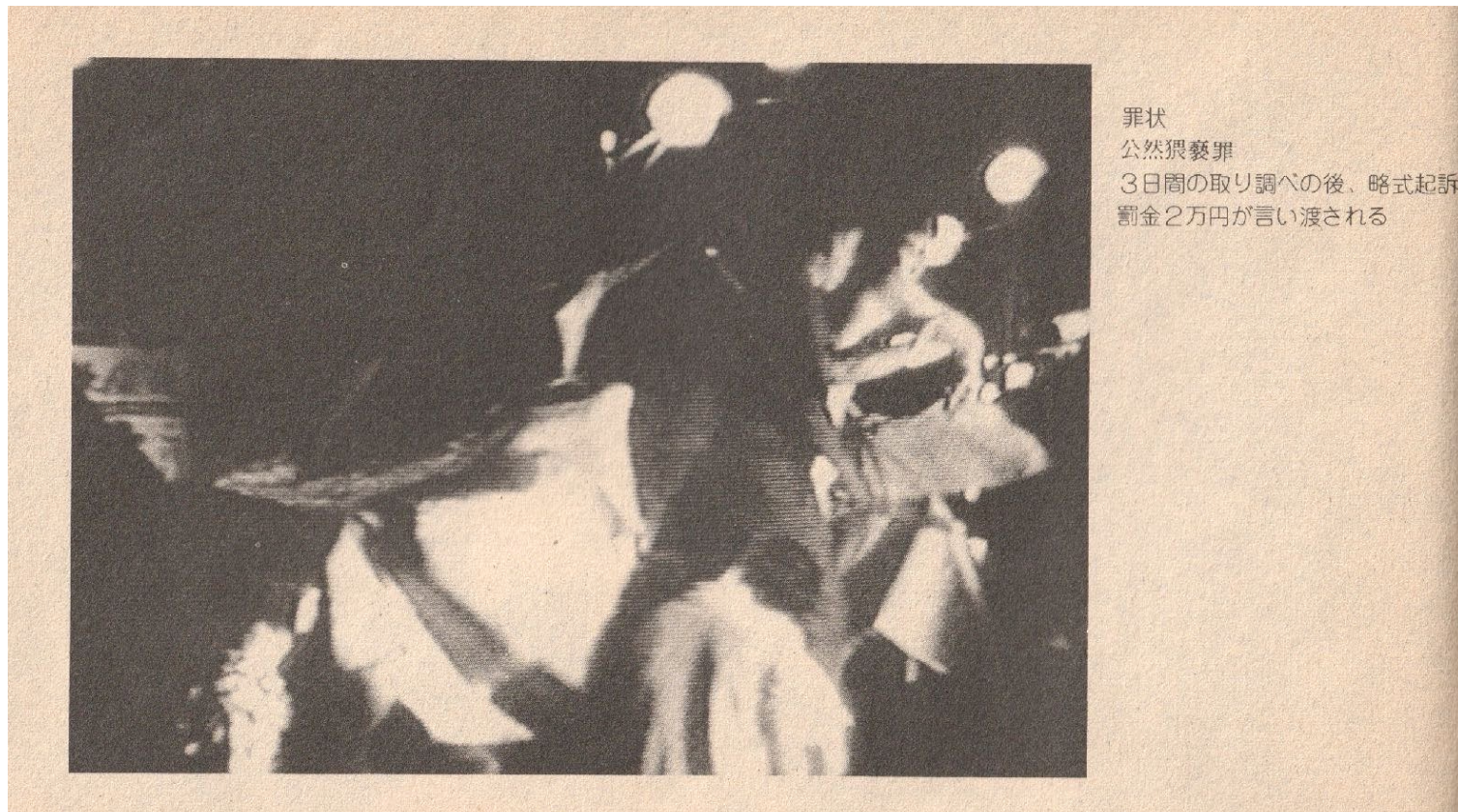
谷川まり



*当時のイベント



霜田誠二



10 スタッフによる準備開始

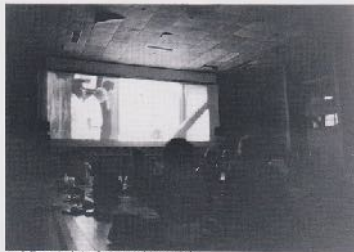
10 荒木直哉
インスタレーション
(廃坑)



オープニングパーティー

12

14



田島町の人達を呼んでの映画上映会。

16

18 オープニング パーティー

映画上映会



オープニングにて、地元の子供といっしょに手品をするヤスパーセン

20

22



採出されたコンセプトをワークに打ち込む

24

20

廊下の足音を想い起こし

20日(月)：金津高原駅を左手に見て車を進めると、やはり左手取付道路入り口に「神奈川県野外研修施設」と書かれた看板が現れてくる。その入り口で、数人のスタッフが、フェスティバル会場であることを知らせるモニュメントの楕を組み立てていた。楕の先端には赤い布がはためいているだけであるが、そこには単に文字で知らせる以上の効果、すなわち、なにかが起りそうなことを十分予感させていた。既に廃校となり、野外

F
研修施設に変わった八幡鉾山小学校に到着すると、正面玄関でも廊上からインスタレーションの布張が展示され、来る者を歓迎していた。

教室の一つが事務局用スペースに当てられ、スタッフは準備作業に追われていた。大勢の人が歩く度に発する、長い板張りの廊下のきしみ音は、廃校が久しぶりに活気に包まれていることを教えているようだった。夕方、外国人を含む一団が到着すると一段と賑やかさが増した。全員中庭に集まって、缶ビールでオープニングの乾杯をした。

この八幡鉾山小学校周辺は戦後期に大変栄えた集落のあったところと聞くが、今では嘘のようにその面影もなく、ただ小学校のみが残ったの豪華の片鱗を伝えている。今回世話をしてくれた町役場に勤める馬場さんの話によれば、当時は田島町内よりもこの八幡鉾山集落には文化の香りが漂っていて、たとえば新しい映画なども、町内よりも先にこの小学校の講堂で上映されたという。

そのこともあって、オープニングのイベントには小学校を会場として使用するセレモニーの一つとして、会津高原駅周辺の人々に呼びかけてからの映画会を再現し、交流を深めることになった。出し物は、丁度当鉾山が隆盛を極めた高度成長期の歪を取り扱った黒沢の「天国と地獄」。福島フォーラムのマネージャーが、銀幕、音響装置、映写機をもって駆けつけてくれた。

子供や年寄りを含めて30数名の地元参加者があり、映画会終了後も山口昭二の歌、武井よしみらの軽パフォーマンス、ドイツから参加したクッペルとヤスパーセンの手品などでしばらく楽しい時を過ごす。

星野共



21日(火)：10時から身体の解放を目的にした、イーターリーの、ワークショップが始まった。一方、ワークショップに参加しないパフォーマンス達は、それぞれに自分にふさわしい「場所」や「空間」を求めて散策した。

日が傾きかけた頃からパフォーマンスが始まった。中庭にて山口昭二の歌、鉾山跡にてサクマクミコの踊り。荒木直哉の廃校跡におけるインスタレーションにはっとさせられる。荒木は数日前から廃校の美術画廊りに訪んでいた。周辺の森林を組み合わせ配置することで、微妙な空間を演出させていた。ホジティブに主張していないところがゆえに存在感を強め、私たちに新しい見方を提示した。一夜はジョイント・インプロ

ビゼーションの醍醐味を味わう。Bassの吉沢元治にえーり・じゅん、サクマクミコ、原田拓巳、さらに沈哲鐘が絡んだ。特に沈のハシゴを使ったパフォーマンスには独特の躍動感があふれ、喝采をあげた。

実行委員の武井・星野氏



山口氏は、単独で廃校跡にてパフォーマンスを行った。



劇団湯風堂



SESSIONには、韓国からの参加者、沈哲鐘氏が飛び入りした。



WORKSHOP D
池田一 (校庭)

10

WORKSHOP A
イーターリー (講堂)

12

WORKSHOP A
イーターリー (講堂)

14

山口昭二 (校庭)

16

サクマクミコ (廃坑)

18

20

吉沢元治 沈哲鐘
えーり・じゅん (講堂)

22

原田拓巳 サクマクミコ

24

1993~ 「NIPAF」

93年 「第1回長野国際パフォーマンス・アート・フェスティバル」

95年 「第2回日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル」

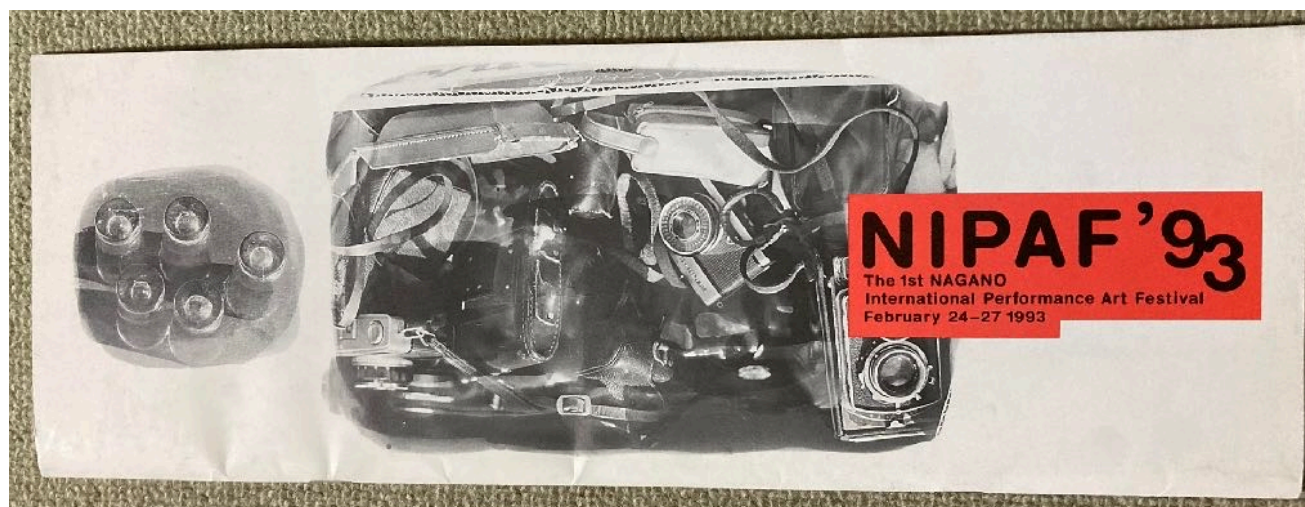
96年 丸山常生参加 「東京ーケベック現代美術交流展」

NIPAFアジア始まる。

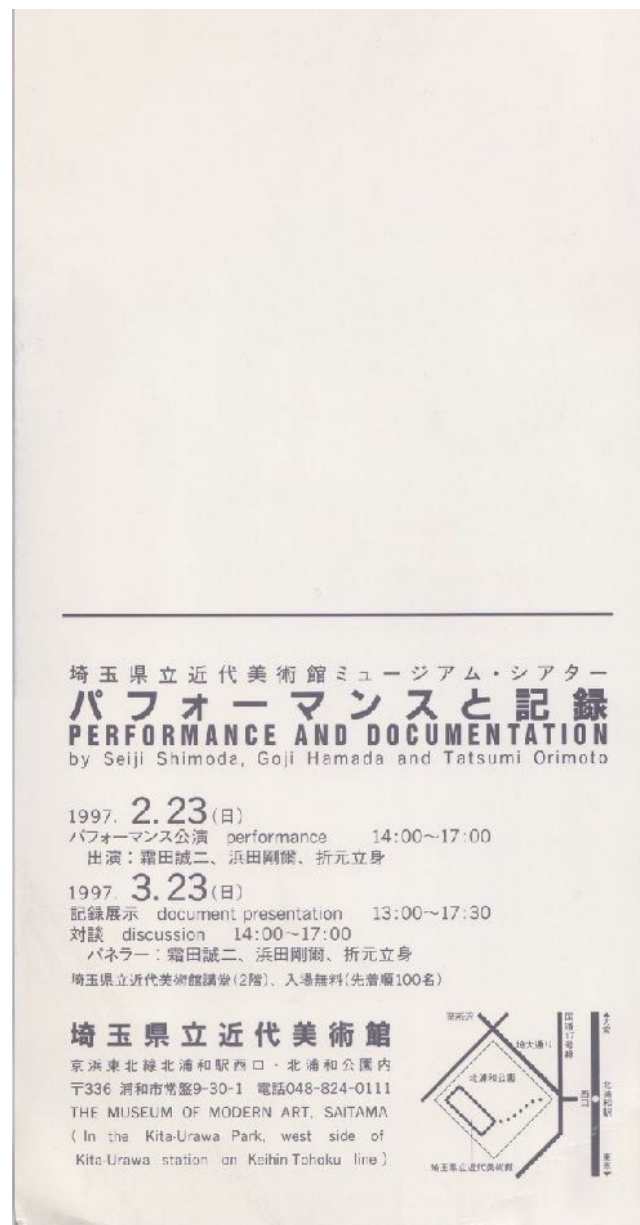
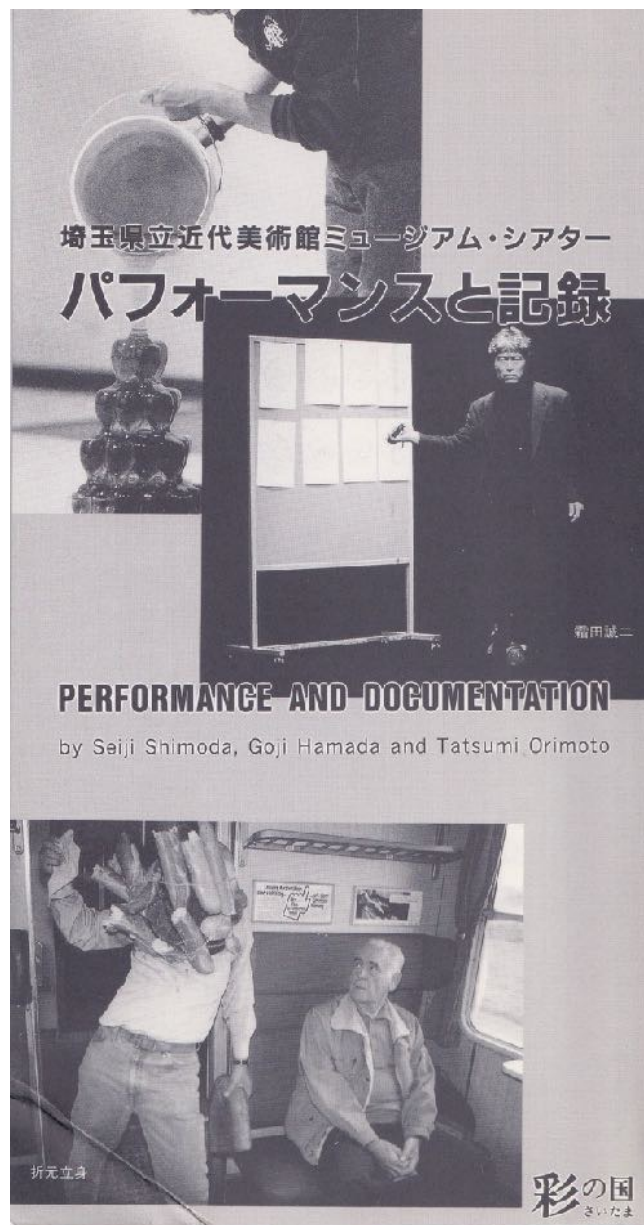
98年 西島一洋参加 以降2007まで名古屋NIPAFをコーディネート
谷川まり参加

99年 荒井真一参加

ディレクター / 霜田誠二



1997年 「パフォーマンスと記録」

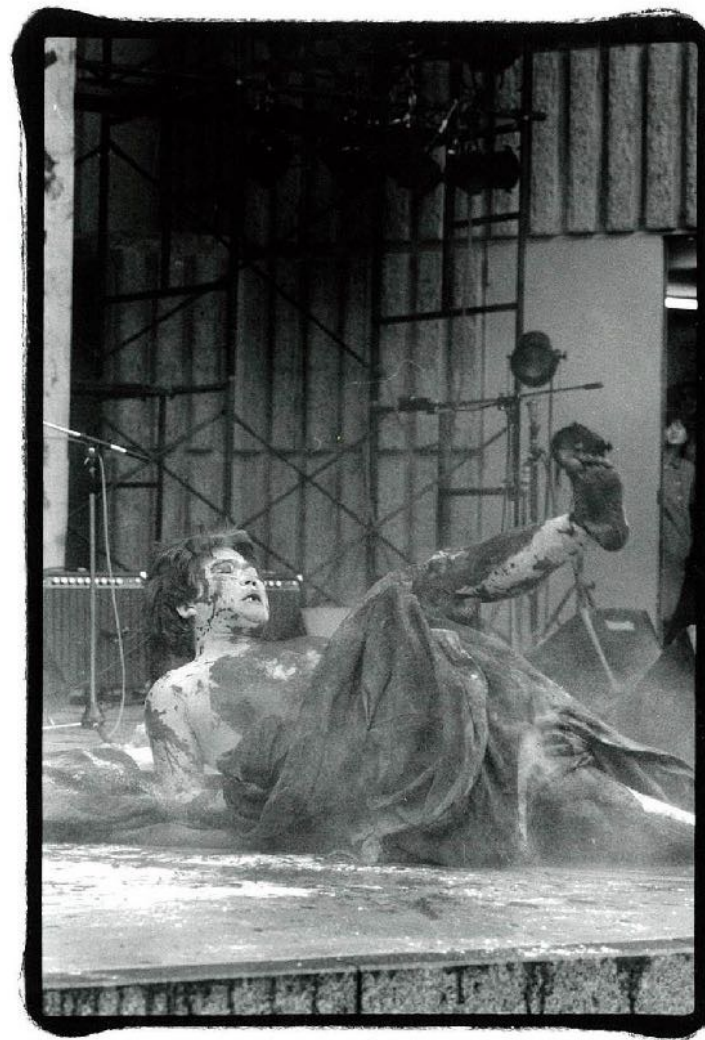


登壇者：浜田剛爾
霜田誠二
折元立身

企画：松永康
(埼玉県立近代美術館学芸員)

1983~「赤木電気」

荒井真一、赤木能里子、三枝由起夫、星野正治、久住卓也



1983年「天国注射の昼」東京・日比谷野外音楽堂

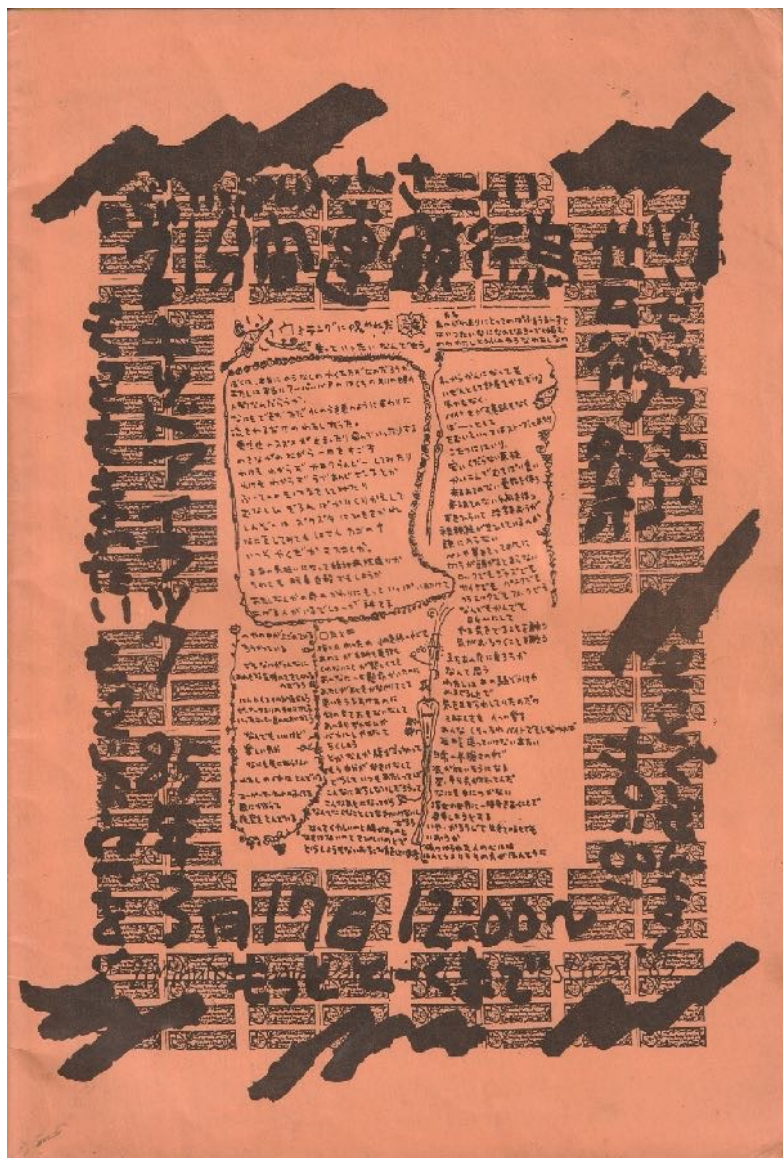
1985年? ~ 「公民館運動」

霜田誠二、谷川まり 他



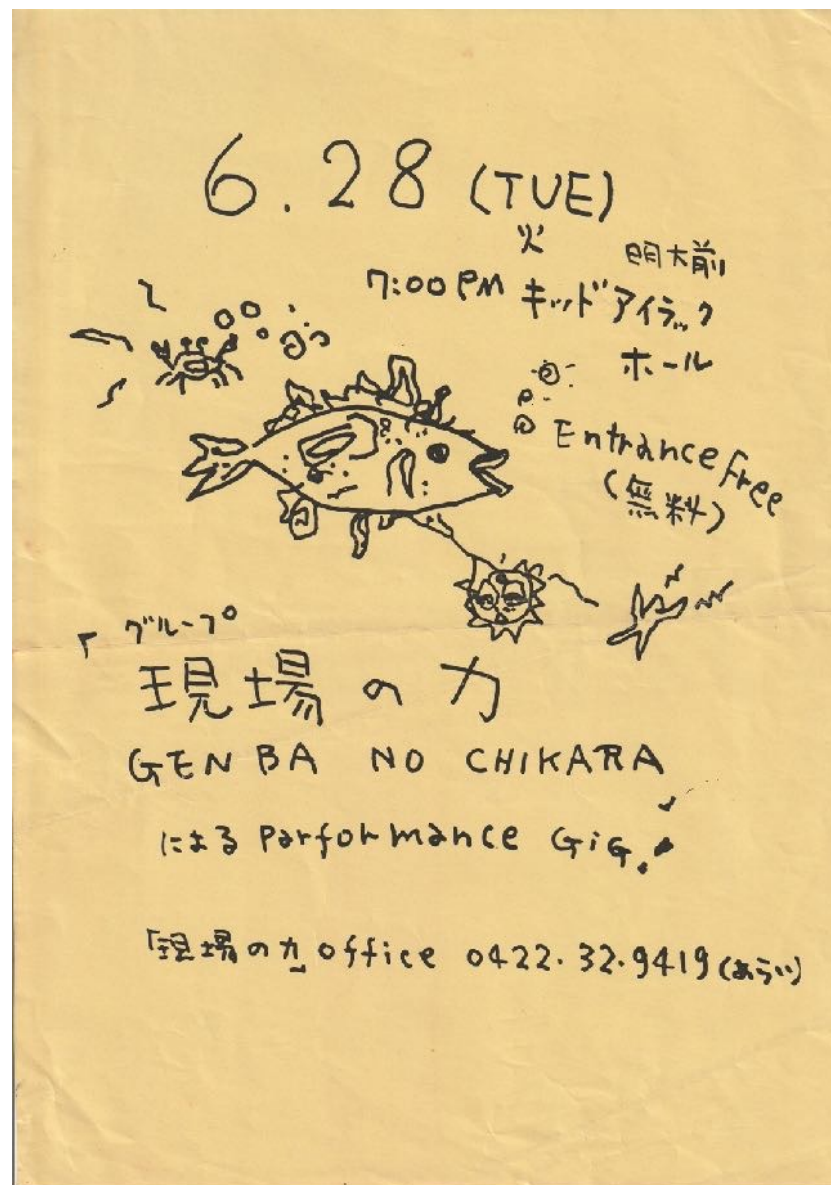
1985年? ~ 「21分間連鎖行為芸術祭」

霜田誠二、谷川まり 他



1987年~「現場の力」

荒井真一+サエグサユキオ



1988年～「体現集団Φアエッタ」



メンバー：写真右から、関智生、林裕己、西島一洋

*クロストーク ~20:00

1. 美術系、ライブ系の壁はあるか、ないか？

クロスオーバーや越境という思想の流行り、舞踏との関係、行為と身体

2. 場所について

パフォーマンスアートにとって拠点と言える場所はあったらどうか？

3. 既成のルールに対して、どのようにアプローチしたか？

社会に対するスタンス、政治性、企画の立て方

4. 「パフォーマンス・アート」という言葉について様々な所感

5. 21世紀になって皆さんの方向性は怎么样了でしょうか？

6. 今後のパフォーマンスアートの展望、および期待は？